

1. 2023年度事業実績報告

(1) 事業の概要・実績

2023年度は、GW後より新型コロナウイルスも第5類に分類され、色々な制限が解除されたことで、コロナ禍前の日常にほぼ戻ってきた1年であった。しかしながら感染力の強い新型コロナウイルスにより、別府エリアでは7月後半から8月中旬までの間、広寿苑では2月にクラスターが発生した。ただし、この4年間のコロナ禍での感染対策・対応及び職員の行動や意識は大きく変わったものとする。

地域貢献として、5年ぶりに実施した納涼大会は、太陽の家全体（愛知、京都含む）で4,000人近い来場者があり、盛大なものとなった。また、太陽ミュージアムの来館者は7,000人を超え、学校関係はもとより企業関係の見学者も増えてきている。グループ企業との連携を更に深め、障がい者雇用を考える企業の後押しに努めたい。そして学校関係にもアピールし、次年度は10,000人の来館者数を目標とする。

就労支援関係は、オープンキャンパスの成果もあり、就労継続支援B型及び就労移行支援の利用希望者が増えている。特に別府の就労移行支援は待機者が出ている状況となった。作業面では、円安の影響を受け、好不調の波はあったものの、就労継続支援B型は全般的には351万円の黒字収支で終わることができた。しかしながら就労継続支援A型は470万円の赤字となった。就労継続支援A型については2024年度に作業内容の再編を行う。そのような中、(株)ADEの親会社であるオートボックスセブンの障がい者雇用に向けての動きがあり、太陽の家として協力することとなった。2023年度は、別府11名、京都2名、愛知8名、障がい者就業・生活支援センターから56名、計77名が社会復帰した。(A型移行も含む)

介護支援関係では、①ゆうわのデイサービス事業を関係機関と連携し、利用者の受け入れ先を決め滞りなく廃止することができた。②専門職の育成に重点を置いた年度計画は、昨年度作成した力量表を基に、標準化を目指し技術力の向上を図った。③ICTの導入については、ゆうわと広寿苑は進み、介護記録ソフトによりペーパーレスとなり職種間での情報共有が容易となった。介護ロボットの導入は、県の補助を受け整備が進み業務の効率化・簡素化となっている。またノーリフティング化は、ゆうわと広寿苑では、ほぼ100%に達している。④喫緊の課題であった介護職、看護職の確保については、求人専門業者との契約、また職員の紹介制度などにより年度末においては利用者の支援に影響のない人員配置ができた。

一昨年度ウクライナから1名の聴覚障がいのある避難民の受入れを行ったが、その方の奥さんにも聴覚障がいがあり、今年度受け入れることとなった。今回も日本の障害者手帳を取得し、現在は就労継続支援A型の従業員として働いている。そして、1月には亀川の賃貸住宅に移り住み、地域生活を始めたことは嬉しい出来事であった。

今後の事業計画を進める上での大きな課題として、物価上昇があげられる。光熱水費、食費の高騰も課題の一つだが、工事関係の高騰が一番大きな課題である。今期実施する予定であった別府のさくら寮跡地の利用計画と愛知の食堂棟及び工場棟トイレの改修工事は、当初予算を大きく上回る金額となった。そのため入札されない結果が続き、工事開始時期が遅れ、次年度まで長引く結果となった。太陽の家は古い建屋が多いことと、同時期に建てた物が多いため、計画的に工事関係を進めていくことが必須となる。次年度は今後の経済状況を反映した中長期計画の見直しを行う。

主要事業 ●印はコロナ禍で大きく影響された項目

【法人本部】

○納涼大会の開催（経営企画課）

5年ぶりの開催となった納涼大会は、地域の方との一番の交流の場であり、地域の方の期待も大きなものである。そのため企画も時間をかけて準備し、グループ企業の協力を得ての開催となった。来場者数も過去最高の3,000人となり大いに盛り上がった。

●太陽ミュージアム見学者数 目標：6000人以上 イベント3回/年（経営企画課）

見学者数は7,059人となり、目標をクリアし、コロナ禍前に迫る数値となった。イベントについては、8月の企画はコロナクラスター発生により未実施。11月に別府市制100周年「シン別府学講座」で鈴木款氏の「日本のパラリンピックの父は別府の医師だった」の講演会及び第32回日本パラスポーツ学会を開催。3月にSINIC理論セミナーを開催した。

○職員の育成・教育の実施（eラーニング、管理職教育等）（経営企画課）

昨年度に引き続きeラーニングでの研修を実施し、3月末の受講率は、個人情報保護54.1%、人権擁護・虐待防止90.2%、ハラスメント防止研修85.6%であった。受講率100%を目指すためには管理職の意識づけが必要である。

○介護福祉士養成校修学者への奨学金制度の導入（経営企画課）

第2Qに大分南高校、佐伯豊南高校の生徒へ広報を実施したが、応募者は0人。引き続きアウンスを行う。

○施設整備積立金 目標3,000万円以上（経営企画課）

施設整備積立金は、共同出資会社の株主配当と大規模工事の持ち越しもあり、当初の目標額を大幅に上回り11.4億円となった。工事関係の費用が高騰しているため、計画的な積立が必要である。

○法人の情報システム管理体制の確立及び実施（DX・管理課）

今年度の情報システムの再構築はすべて予定通り完了。情報セキュリティ対応は規程の作り直し及び運用基準書の作成が必要である。予算4,700万円に対し、実績は4,100万円であった。

【別府本部】

○知的障がいのある人の作業自立改善（別府工場課）

当初はPYFZ08ラインの投入工程を計画していたが、生産計画の大幅ダウンで計画変更を余儀なくされた。次年度に持ち越しとした。

○工賃評価の見直し（就労支援課）

大分県の監査での指摘であり1年を通じて検討し、12月には一旦評価の仕方・仕組みについ

て説明した。他施設と整合する必要もあるため、別府市自立支援協議会の就労部会にて継続的に検討することとなった。

○倉庫管理業務の拡充（別府工場課）

今年度はソニー・太陽の外部倉庫（日出）の立ち退きがあり、新規物件探しに時間を要したため、計画に修正がかかった。新倉庫（別府）は太陽の家が契約することとし、色々な事業展開ができる形となった。

○セミセルフレジ導入に伴う人材活用（サンストア課）

10月にセミセルフレジを導入し、レジの体制が5名から4名へととなった。そのため1名をベーカーリーへ配属することとし、ベーカーリーの売上を伸ばすこととした。

○A型・一般企業への就職6名以上（就労移行課）

オムロン太陽2名（1名は別府工場より）、ホンダ太陽2名、三菱商事太陽1名、富士通エフサス太陽1名、グループ企業6名就職、外部企業2名就職、A型3名 合計11名を就職に結びつけることができた。

○発達障がい疑われる人の支援強化（就労移行課）

発達障がい疑われる方（グレーゾーン）の見学が27名、実習11名の受け入れを行った。その中にはフリースクールの学生が大幅に増えた。次年度も同等数以上の受け入れを計画したい。

○オープンキャンパスの実施（別府本部）

7月末にコロナのクラスターが発生したこともあり、今年度は10月と11月の2回に分けて実施。参加者は81名で次年度利用には2名が繋がった。次年度も複数回に分けて実施する。

○作業会計、施設会計の黒字化（就労支援課）

就労継続支援B型は、今年度売上目標100,800千円に対し、実績は133,959千円となり、達成率133%であった。今年度の工賃積み立ては1,519千円であり、次年度は就労時間を短縮しながらの工賃金額の維持向上を目指したい。

【大分広域本部】

○短時間労働（週20時間未満）の働き方への対応準備（地域就労支援課）

東部圏域企業の企業開拓リストを作成し職員間の情報共有の習慣化を進め、雇用率未達企業を中心とした企業訪問を継続的に実施した。精神障がいのある方の超短時間労働については、周知活動はしたものの地域企業で関心事として認識されないのが実際であった。企業の関心は2024年4月からの雇用率改定であり、採用活動の強化の相談が増大した。

○モニタリング実施による、より正確な生活状況の把握（地域生活支援課）

地域生活の登録者の80%以上を目標に計画的にモニタリングを実施した結果、別府92.8%、日出92.6%と高い数値となった。今後も計画的に実施することで利用者の状況把握に努め、利用者の要望に合った支援に努めたい。

●オール太陽職場対抗スポーツ大会実施（健康支援課）

就労継続支援B型を中心とした「職場ラリンピック」を12月9日に開催した。就労支援課と連携し、卓球バレーの競技運営を担当した。次年度以降は、関連企業も含めた拡大企画とする。

○重度化傾向による障害支援区分の見直し（ゆたか課）

利用者40名中21名の区分見直しを実施し、11名の支援区分がUPとなった。来年度は重度化に対応できるよう介護員の配置を見直す予定。

○看取り体制の充実（広寿苑課）

環境整備として「個室の用意」「付き添いのための配慮」「愛着のあるもの（写真、音楽等）の持ち込みの配慮」などハード・ソフトの両面で行った。また家族へのアンケートによる希望調査や連絡手順、説明資料を作成し、マニュアルに盛り込むことで標準化とした。

今年度は5名の利用者を苑内で看取った。

○専門職の技術向上（ゆたか課、ゆうわ課、広寿苑課）

各職種の技術標準化を進め、力量表活用によるセルフチェックを実施。現在は教育指導を実践し定着化を進めている。定期的自己点検およびフォロー方法については次年度の持ち越しとなる。

【愛知京都本部】

○新規実習先の開拓（トヨタグループ、デンソーブラッサム）（愛知：就労支援課）

企業訪問5社（トヨタグループ、デンソーブラッサム、蒲郡信用金庫、医療法人北辰会、わくワーク岡崎幸田）を実施し、就労移行の実習先として開拓した。

トヨタグループに1名が採用された。

○物流業務のB型での実施（京都：就労支援課）

2024年4月より実施できるように、今年度は毎月オムロン京都太陽と協議を重ねた結果、職員の配置は完了し、利用者2名が4月より開始できる見込み。

○一般就労9名（愛知・京都：就労支援課）

一般就労5名、A型5名で目標達成はできなかったが、内容的には次年度に繋がる活動となった。

○オープンキャンパスの実施（愛知本部、京都本部）

愛知：今年度は4回実施し、参加者は120名でその中より次年度3名が利用に繋がった。

京都：今年度は5回実施し、参加者は78名でその中より次年度2名が利用に繋がった。

2023年度主要施設整備

(千円)

《法人》	OA関連整備	40,695
《別府》	さくら寮解体工事	37,268
	第1作業棟1階ファンコイル更新	7,383
	第1作業棟キュービクル更新	2024年度に延期
	本館駐車場（万力）アスファルト舗装工事	3,080
	本館駐車場～第1作業棟屋根付通路工事	2024年度に延期
	リフト付送迎用車両購入	2,556（補助金70%）
《日出》	屋内消火栓改修工事	14,906
《杵築》	ノーリフティングケア用品購入	857（3/4補助金）
	介護ロボット aams.（見守りシステム）購入	2024年度に延期（1/2補助金申請）
《愛知》	管理棟1Fトイレ改修工事	18,700（エントランス工事と合同）
	管理棟通用ロエントランス改修工事	
《京都》	敷地内北側通路の補修工事	4,050
	工場作業場入口建具改修	2,750